

金沢大学

理工系大学院博士後期課程進学に関するジェンダーを考慮した学生ニーズ調査

報告書

平成28年1月25日

金沢大学男女共同参画キャリアデザインラボラトリー

目次

I	はじめに.....	2
II	調査実施方法.....	3
III	集計結果.....	3
1	所属.....	3
2	学年.....	4
3	性別.....	5
4	大学で理系の専攻を選んだ理由.....	5
5	理系の進路を選択した時期.....	6
6	研究室に所属しているか.....	7
7	研究室の生活・研究環境などで問題がある（改善が必要）と思われる点.....	7
8	学生生活で男女差を感じたことや、 男性だから、あるいは女性だから困ったこと.....	8
9	大学（学士）卒業後の希望進路.....	8
10	博士後期課程に進まない理由.....	9
11	博士後期課程に進みたい理由.....	10
12	博士後期課程での希望サポート.....	10
13	希望就職先.....	11
14	13 で選んだ就職先に就職したい理由.....	12
15	研究者選択.....	13
16	研究者になりたい、ややなりたい理由.....	14
17	研究者にあまりなりたくない、なりたくない理由.....	15
18	研究者を選んだときの希望サポート.....	15
IV	まとめ.....	17
	参考資料：自由意見詳細.....	18

I はじめに

平成8年に第1期科学技術基本計画で「ポストドクター等1万人支援計画」が打ち出され、競争的環境下に置かれる博士人材を拡充することが試みられ、若手研究者の層は厚くなった。一方で任期なしのアカデミックポストは減少し、修了後の進路として不安定な身分で研究者となる「ポストク問題」などが生じ、優秀な博士人材の専門性を社会的に活かすきれていない傾向にある。

このような状況の中、全国的に大学院博士後期課程（以下博士課程とする）に進学を希望する学生が減少傾向にあり（図1）、金沢大学も例外ではない。

高度な教育を受け、研究を行う人材を育てることは日本の科学技術の将来を鑑みて重要なことである。そこで学生の大学院進学率の向上、研究を志す学生の増加につながる効果的な支援策の提案、実施につなげることを目的とし、調査を行った。

また一方でジェンダーという観点から見て理系分野での女子学生は徐々に比率が上がってきている。しかし女子学生が大学院博士後期課程に進学する比率は男子に比較しても更に低い。そこで、今回の調査ではジェンダーという観点からも内容を整理した。

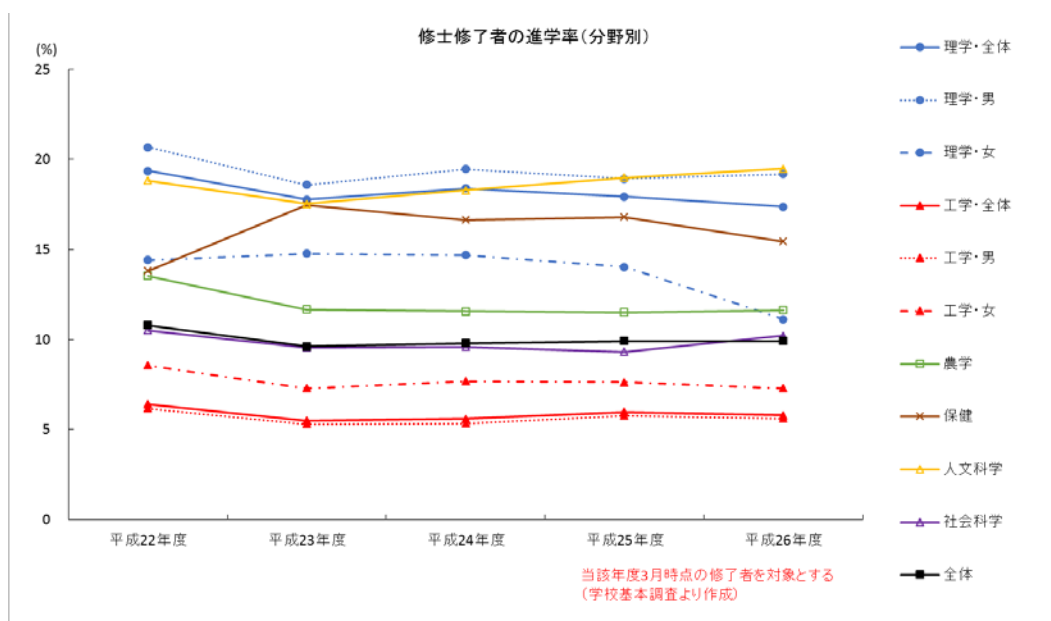


図1 修士修了者の進学率

II 調査実施方法

学生の大学院（特に博士後期課程）進学率の向上、研究を志す学生の増加につながる効果的な支援策の提案、実施につなげるため、学生ニーズ調査を実施した。

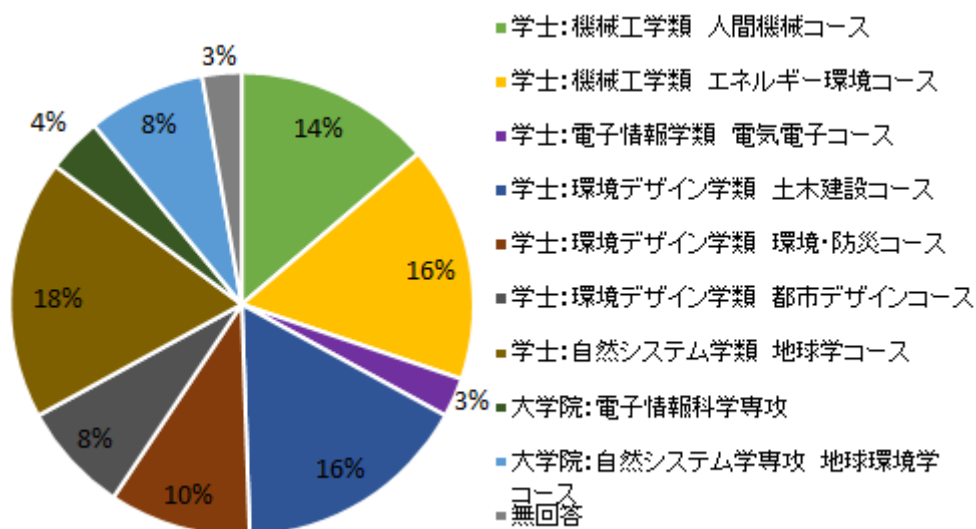
調査概要	アンケート（無記名）
調査方法	紙での配布およびアカンサスポータル（金沢大学のオンラインネットワークシステム）
調査期間	平成27年10月
対象者	理工系学生（学部3年生以上、大学院生（博士前期課程））
実施機関	金沢大学男女共同参画キャリアデザインラボラトリー
回答者数	252名（男子186名、女子65名、性別無回答1名）

III 集計結果

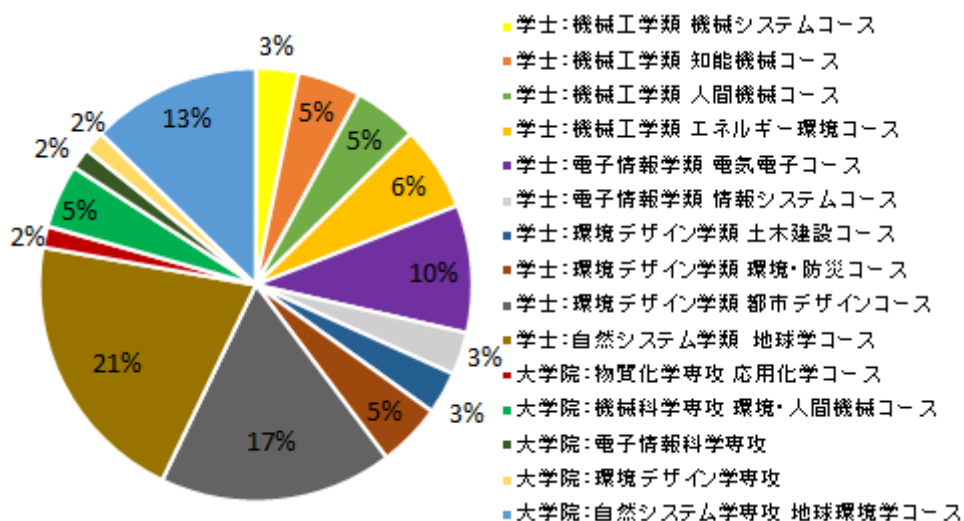
1. 所属

- ・回答者の所属は数物科学以外の理工系分野であった。
- ・男子の回答は、最も多かったのが、環境デザイン学類（学士）34%、以下、機械工学類（学士）、自然システム学類（学士）、自然システム学専攻（大学院）、電子情報科学専攻（大学院）、電子情報学類（学士）の順である。
- ・女子の回答は、最も多かったのは環境デザイン学類（学士）25%、以下、自然システム学類（学士）、機械工学類（学士）、電子情報学類（学士）、自然システム学専攻（大学院）、機械科学専攻（大学院）と続き、男子よりも多様な所属の学生から回答が得られた。

【男子】



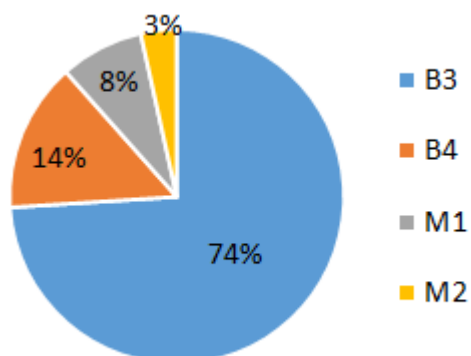
【女子】



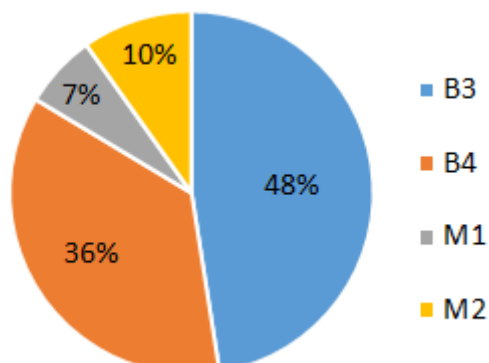
2. 学年

・調査票を紙で配布した授業科目の関係で、学部生が大学院生より多い。男子は学部生が88%、大学院生が12%であった。女子は学部生が84%、大学院生が16%であった。

【男子】

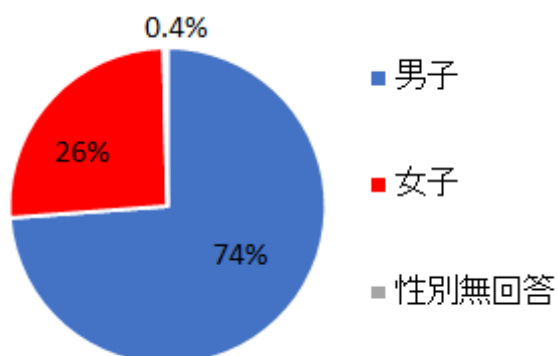


【女子】



3. 性別

・回答者の性別は、男子 186 名 (73.8%)、女子 65 名 (25.8%)、性別無回答 1 名 (0.4%) である。



4. 大学で理系の専攻を選んだ理由 (複数回答可)

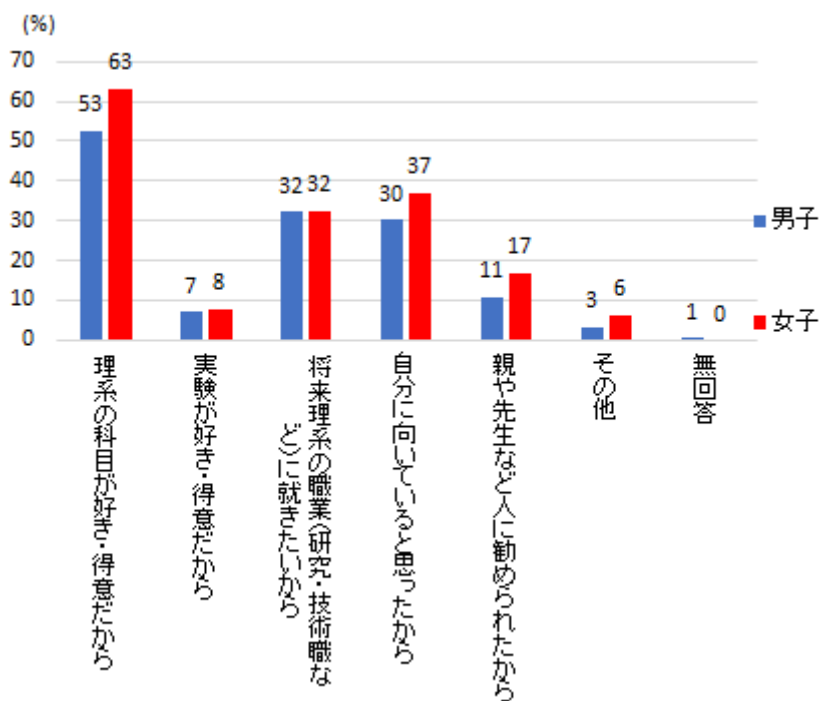
・男女ともに「理系の科目が好き・得意だから」が最も多く、男子 53%、女子 63% である。

・男子は、「将来理系の職業に就きたいから」 > 「自分に向いていると思ったから」 > 「親や先生などに勧められたから」 > 「実験が好き・得意だから」と続く。

・女子は、「自分に向いていると思ったから」 > 「将来理系の職業に就きたいから」 > 「親や先生などに勧められたから」 > 「実験が好き・得意だから」と続く。

・「親や先生など人に勧められたから」は男子 11%、女子 17%、「実験が好き・得意だから」は男子 7%、女子 8%と少ない。

・男女の回答割合に差は少ない。



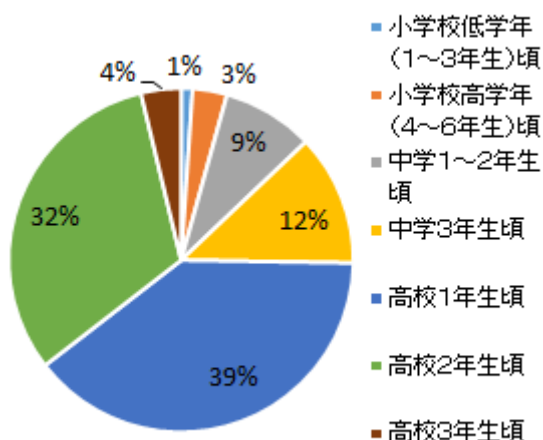
「その他」自由意見 8件（男子4件、女子4件）

- (1) 文系科目が苦手 4件
- (2) 就職に困らない 2件
- (3) 興味がある 2件

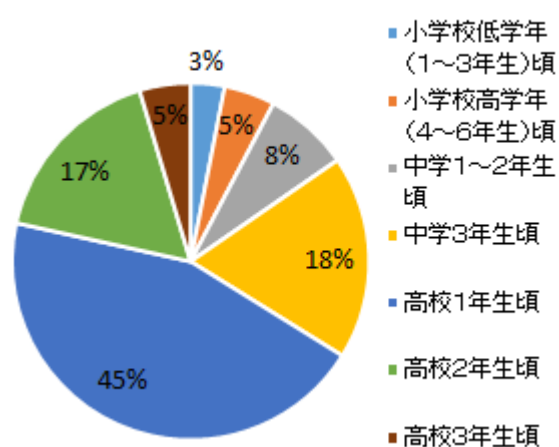
5. 理系の進路を選択した時期

- ・ 中学3年生から高校2年生頃を選択する人が男子は83%、女子は80%と多い。
- ・ 小学生で選択する人は男子が4%、女子が8%であり、女子の方が若干選択する時期が早い傾向がある。

【男子】



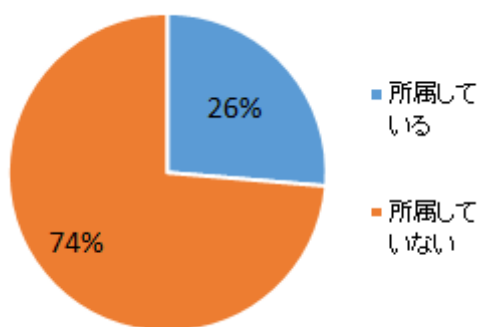
【女子】



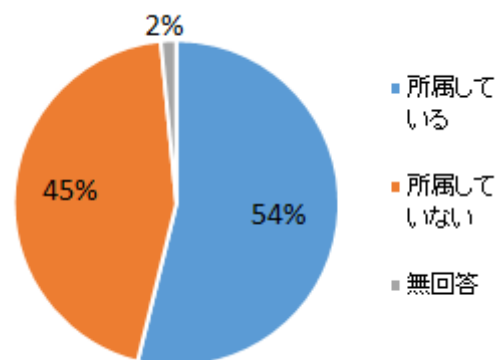
6. 研究室に所属しているか

男子の回答者は学部3年生が74%であり、研究室に所属している割合は26%と女子の54%に比べて低い。

【男子】



【女子】



7. 研究室の生活・研究環境などで問題がある（改善が必要）と思われる点

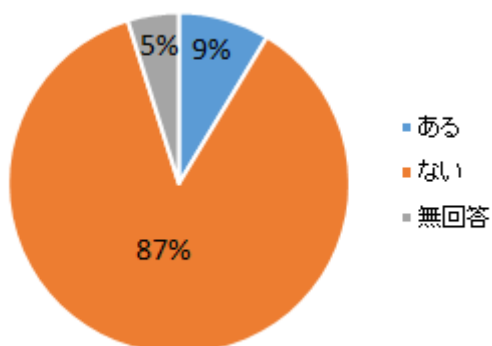
この設問は研究室に不満がある人は博士課程に進みたくないという可能性を検証するために設けたが、問題があると感じている人は15件で研究室に所属している84人に対して約18%と少数派だった。件数が少ないことから、当初検討予定であった「研究室に不満がある人は博士課程に進みたくないのでは」という仮説の検証は行わなかった。

15 件（男子 11 件、女子 4 件）

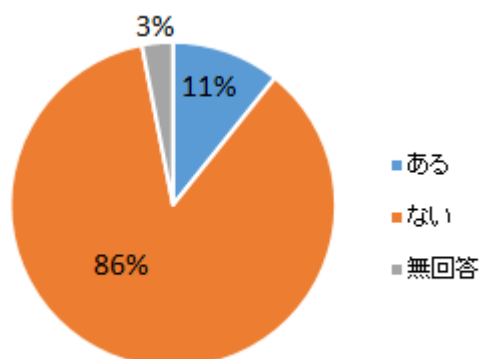
- (1) 研究時間、コアタイムが長い 8 件
- (2) 雑用が多い 3 件
- (3) その他 4 件

8. 学生生活で男女差を感じたことや、男性だから、あるいは女性だから困ったこと性別で困ったことがある人は約 1 割と少ない。内容は男女差がある。

【男子】



【女子】



・男子 15 件

- (1) 男女で対応に差を感じる（女性に甘い） 7 件
- (2) 駐車場の配置、もらいやすさが不公平 3 件
- (3) 女子が少ない 3 件
- (4) その他 2 件

・女子 6 件

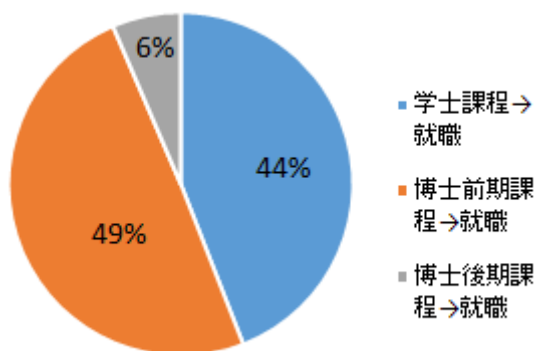
- (1) 体力的に不利 4 件
- (2) その他 3 件
 - ・女子が少なく自然体でのグループ活動が困難
 - ・女子だから特別扱いされているように見られる
 - ・前の学校で、進路相談の際に結婚や出産についての考えを聞かれた

9. 大学（学士）卒業後の希望進路

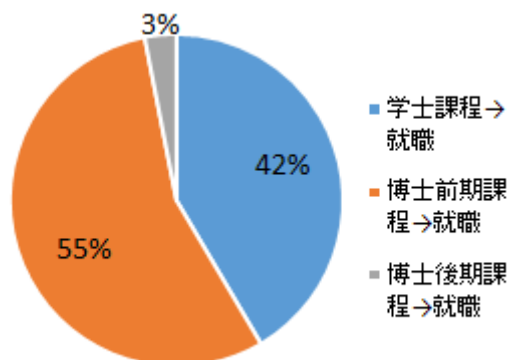
- ・大卒で就職が 4 割強、博士前期卒で就職が約 5 割、博士後期課程に進学したい人は 1 割以下であった。
- ・博士後期課程に進みたい割合は男子でやや多いが回答に性別による有意差はなかつ

た (χ^2 検定、有意水準 5%)。

【男子】



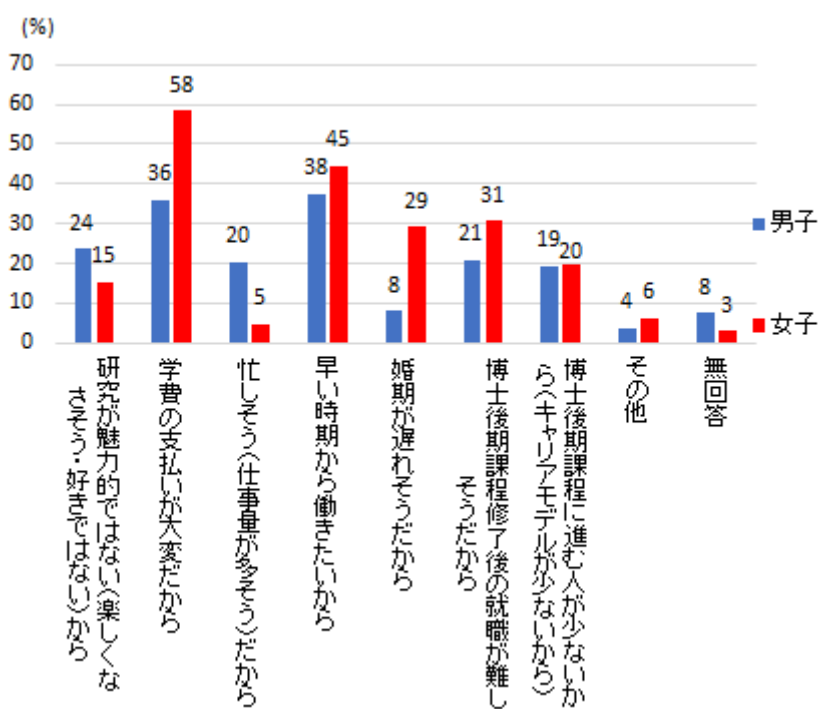
【女子】



10. 博士後期課程に進まない理由 (学士課程、博士前期課程卒業後に就職を選択した人)
(複数回答可)

・「学費の支払いが大変だから」、「早い時期から働きたいから」という経済的な理由が多い。

・男女差がある回答は、「学費の支払いが大変」、「婚期が遅れそう」などで女子の回答が多い。「忙しそうだから」は男子の回答が多い。

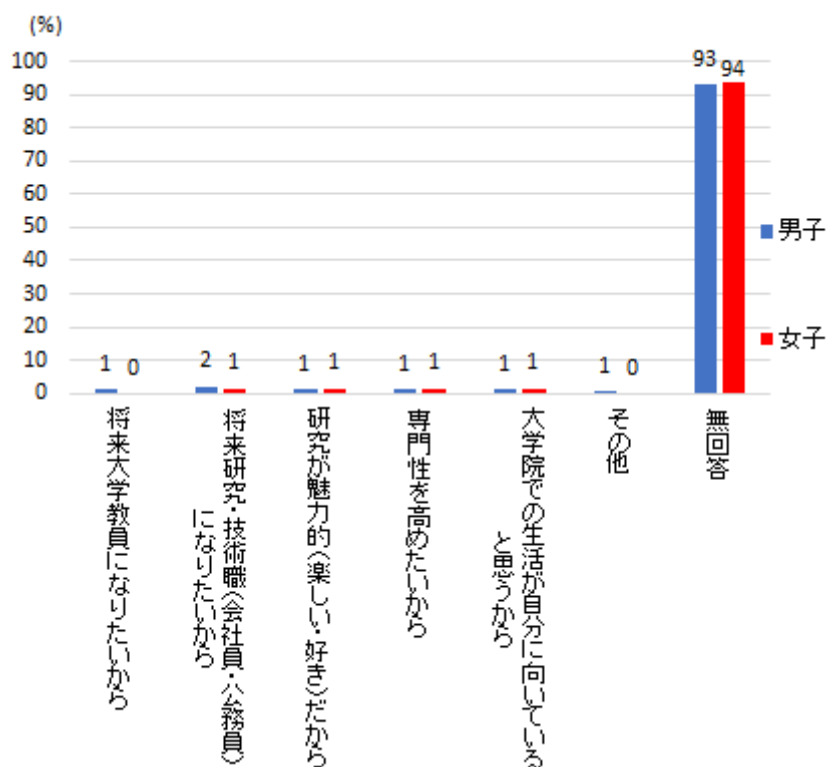


「その他」自由意見 10件（男子6件、女子4件）

- ・才能がないと感じたから
- ・家庭の経済状況によって進めるかわからない
- ・進むメリットが感じられない
- ・企業で働きたいから
- ・研究がつからそう など

11. 博士後期課程に進みたい理由（博士後期課程卒業後に就職を選択した人）（複数回答可）

博士後期課程に進みたい人が少ないので、男女差が出にくい。

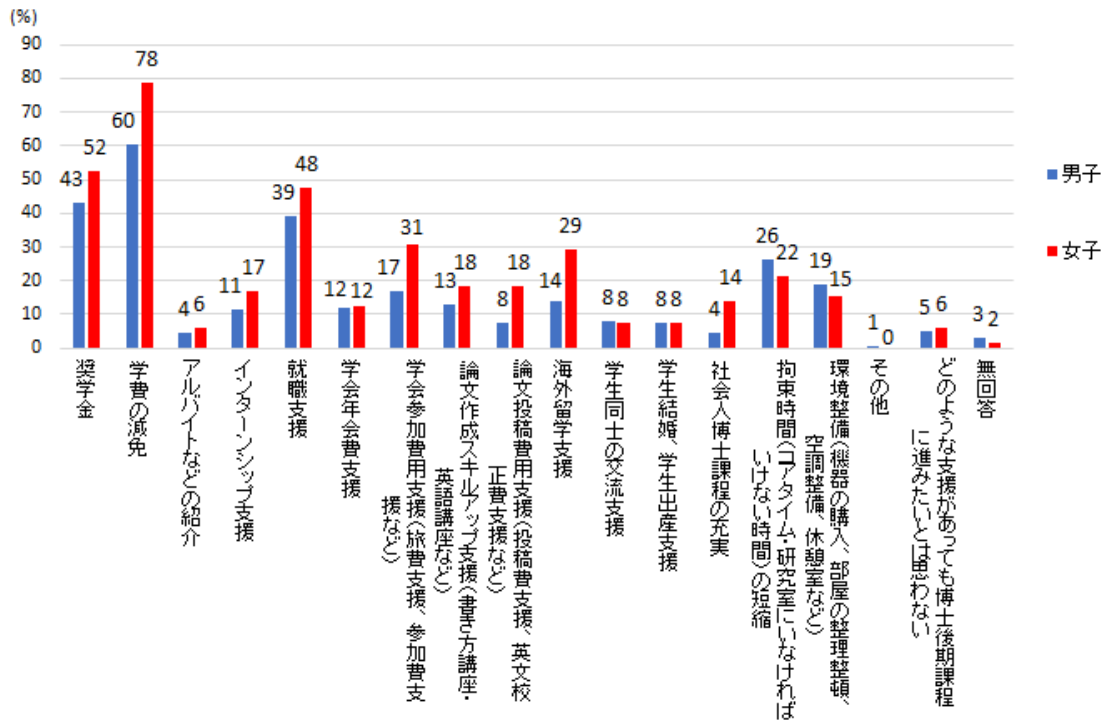


「その他」自由意見 1件（男子1件）

- ・高専教員

12. 博士後期課程での希望サポート（複数回答可）

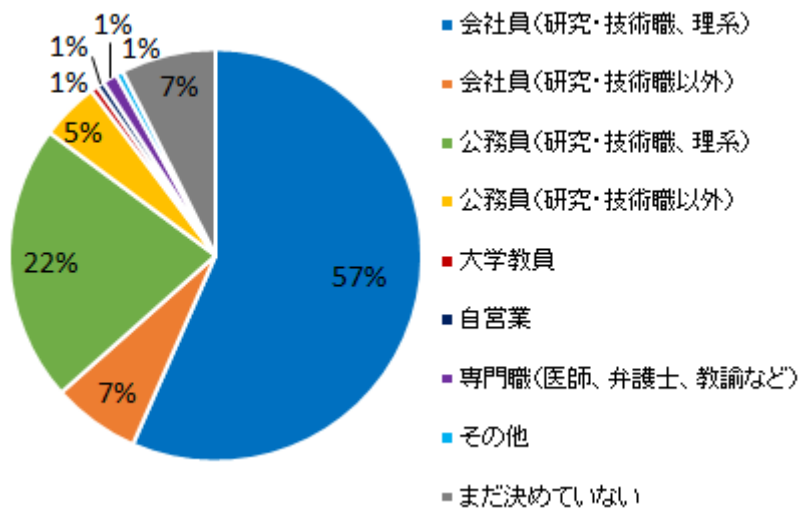
- ・「学費の減免」、「奨学金」、「就職支援」と経済関連の回答が多い。
- ・男女差は少ないが、「海外留学支援」、「社会人博士課程の充実」などは女子の方が求めている傾向がある。



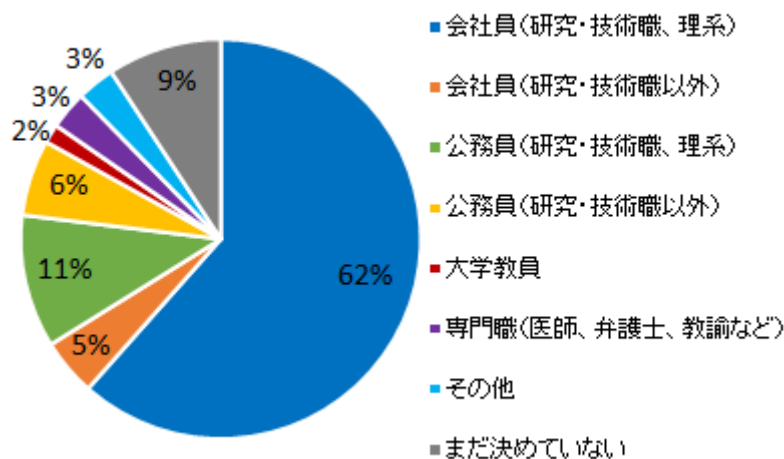
13. 希望就職先

- ・理系の会社員になりたい人が最も多く（男子 57%、女子 62%）、次いで理系の公務員が多い（男子 22%、女子 11%）。
- ・男女差は少ないが、男子の方が公務員志向が強い（男子 26%、女子 17%）。

【男子】



【女子】



14. 13 で選んだ就職先に就職したい理由

理系会社員を目指す人は「学んだことを活かしたい」という人が多い。公務員を目指す人は安定を求めている。

①会社員（研究・技術職、理系） 111 件（男子 79 件、女子 32 件）

- (1) 学んだ事を活かしたい 48 件
- (2) 就きたい仕事がある 16 件
- (3) やりがいがある 4 件
- (4) その他 43 件

②会社員（研究・技術職以外） 14 件（男子 12 件、女子 2 件）

- (1) 研究・技術職に魅力を感じない 4 件
- (2) 民間で働きたい 2 件
- (3) その他 8 件

③公務員（研究・技術職、理系） 40 件（男子 34 件、女子 6 件）

- (1) 安定している 20 件
- (2) 福利厚生がしっかりしている 3 件
- (3) 地域貢献したい 4 件
- (4) その他 15 件

④公務員（研究・技術職以外） 13件（男子9件、女子4件）

（1）安定している 8件

（2）その他 5件

⑤大学教員 1件（男子1件、女子0件）

・安定性を求めるので

⑥自営業 自由記述の回答なし

⑦専門職（医師、弁護士、教諭など） 3件（男子1件、女子2件）

・やりたいから

・今まで教職をとってきたから

・ただ教師になりたい

⑧その他 3件（男子1件、女子2件）

・自身が高専出身であり、教員の魅力を感じたから。

・未定

・決めていないので書くことはない。

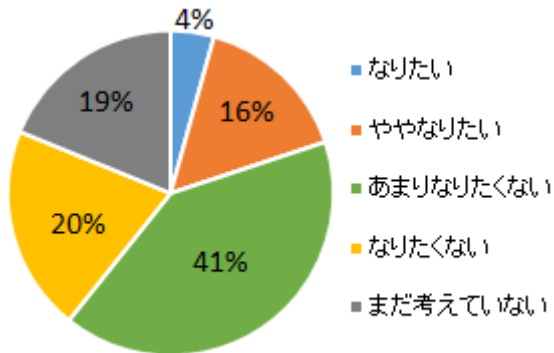
⑨まだ決めていない 1件（男子1件、女子0件）

・決めかねている

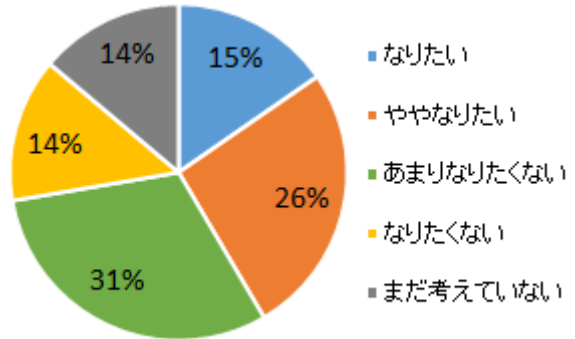
15. 研究者選択

「研究者になりたい」と答える比率は女子の方が高いが、設問では広義の「理系社員なども含めた研究者」の選択について聞いたが、設問の意図とは異なる「大学教員のような研究者」の意味で受け取った人がいることを考慮する必要がある。

【男子】



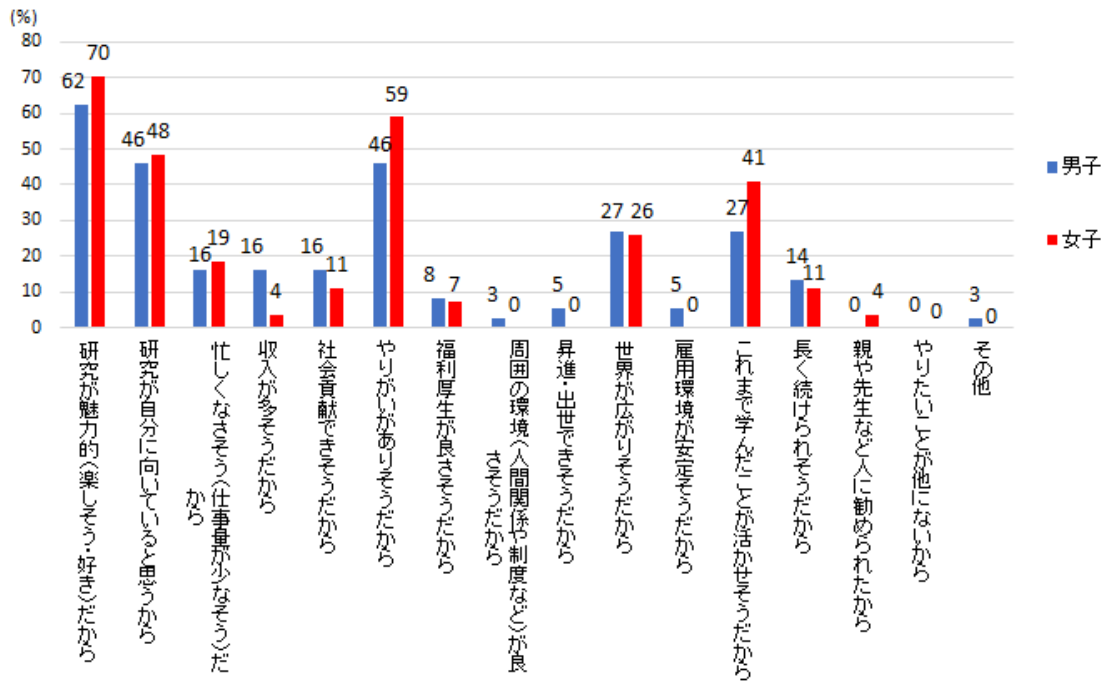
【女子】



16. 研究者になりたい、ややなりたい理由

「研究が魅力的だから」、「やりがいがありそうだから」、「研究が自分に向いていると思うから」、「これまで学んだことが活かそうだから」と答える人が多い。

なお、設問 15 で研究者に「なりたい」、「ややなりたい」を選択した回答者のみ集計の対象とした。



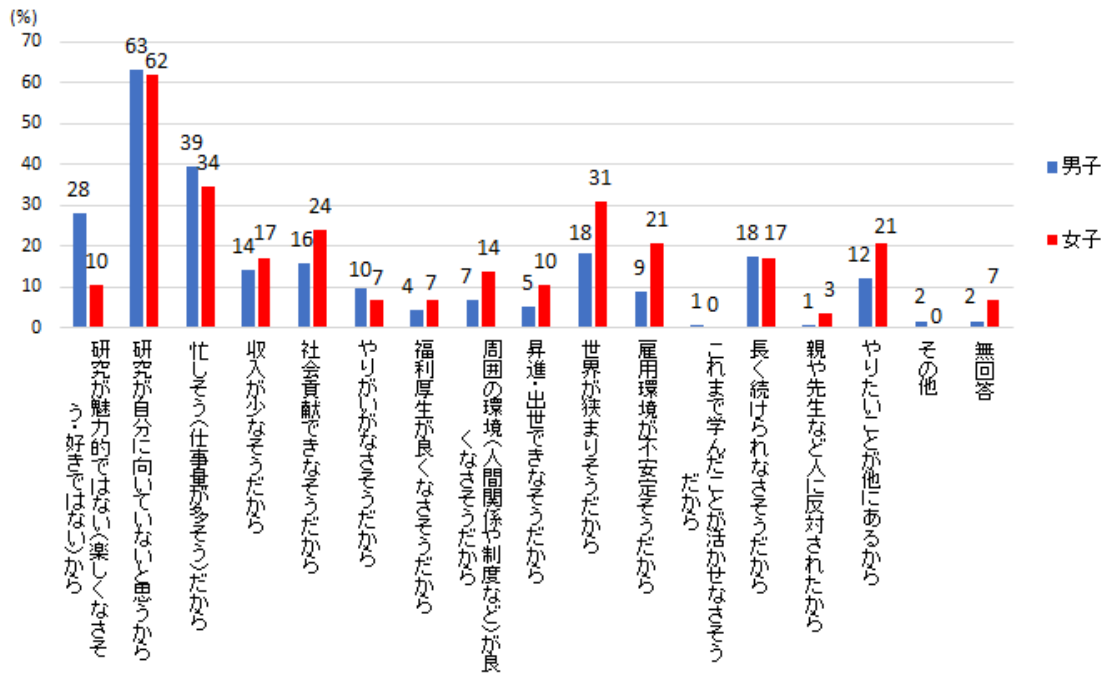
「その他」自由意見 1件（男子1件）

- ・金払いが良いらしいから

17. 研究者にあまりなりたくない、なりたくない理由

- ・「研究が自分に向いていない」が多く「忙しそう」、「世界が狭まりそう」なども多い。
- ・男女差はあまりないが、「研究が魅力的ではない」と答えるのは男子が28%でやや多い。

なお、設問15で研究者に「あまりなりたくない」、「なりたくない」を選択した回答者のみ集計の対象とした。



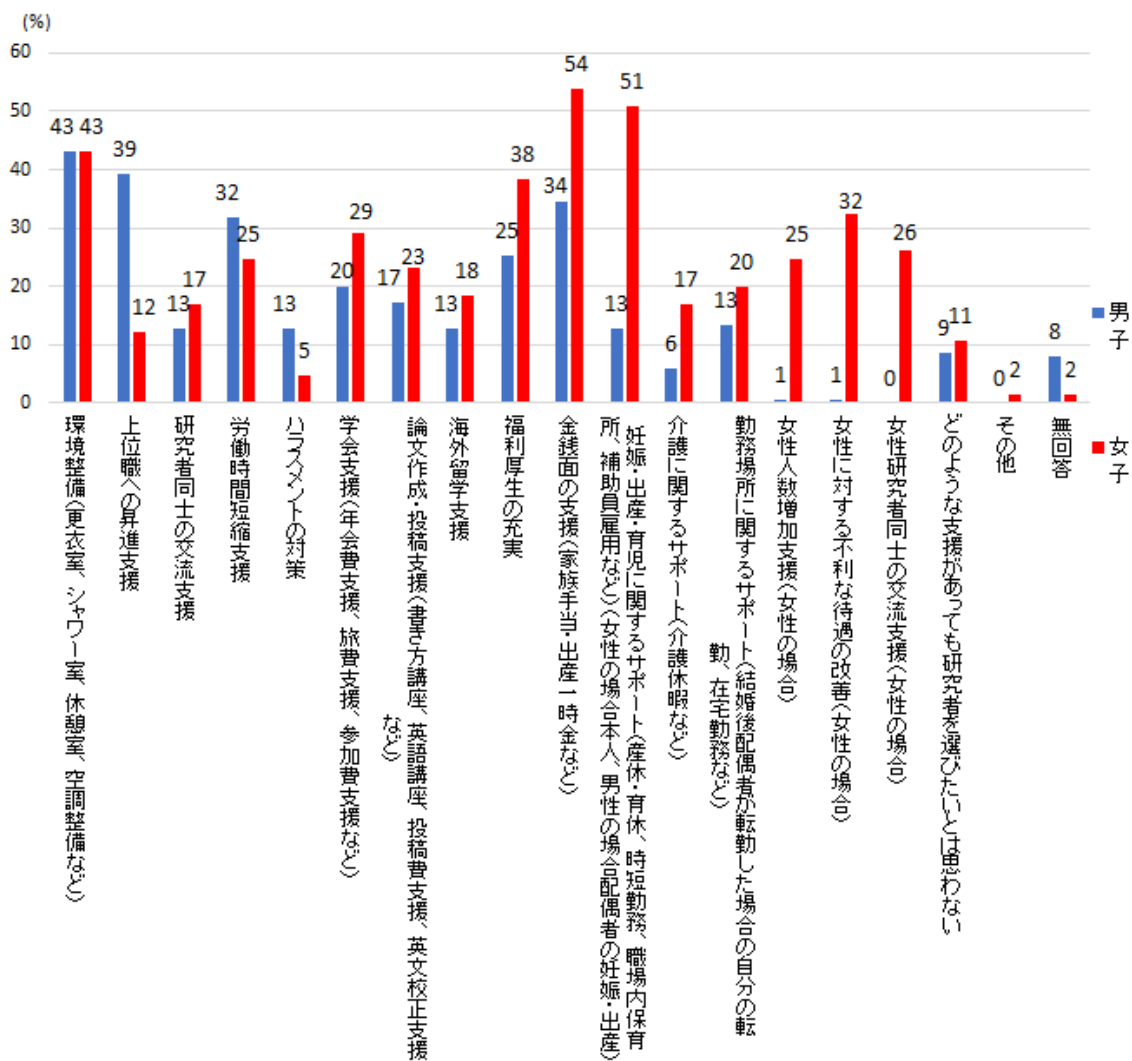
「その他」自由意見 2件（男子2件）

- ・仕事のレベルのわりに待遇が悪そう、高度な能力が必要
- ・婚期が遅れそうだから

18. 研究者を選んだときの希望サポート

- ・男女差が最も大きな設問であった。

- ・男女ともに「金銭面の支援」や「環境整備」を希望する人が多い。
- ・男子は「上位職への昇進支援」、「労働時間短縮支援」が多く、女子は「妊娠・出産・育児に関するサポート」、「福利厚生の充実」、「女性に対する不利な待遇の改善」などが多い。



IV まとめ

金沢大学および金沢大学大学院修士課程の理工系学生252人から回答を得、分析を行うことができた。

博士後期課程に進学希望のある人は1割以下と少なく、全国的な傾向と同様であった。男女とも、博士後期課程に進まない理由は、経済関連の回答が多く、博士後期課程では学費の減免、奨学金、就職支援の経済関連のサポートを希望する学生が多い。以上から、博士後期課程進学時や在学中の学生の経済的な負担を軽減させることは、大学院への進学率の向上に繋がる可能性がある。

ジェンダーという点から見ると学生生活で、性差を感じることは少なく、大学院博士課程への進学希望や希望就職先も男女差が小さかった。大学院への進学率の向上策などを考える場合は、男女を分けて考える必要はあまりないと思われる。

一方、遠い将来（研究者を選んだ時の希望サポート）について聞くと、男女差が大きくなる。特に男子は昇進希望が強く、女子は妊娠などへのサポートの希望が強かった。理系の職業を目指す学生を増やすには、男女別の対策を考える必要があると考えられる。

今回の結果を踏まえ、今後とも金沢大学において博士後期課程への進学支援および男女共同参画支援を行っていく。